

第1回 「KYOTO Agri-Business Café」ワークショップ開催概要

1 日 時：令和3年7月26日（月） 午後4時20分～午後6時00分

2 場 所：オンライン（ZOOM）

3 参加者数：市内農家 18名
企業等 29名

4 結 果

キックオフとなる第1回目のミーティングはオンラインで開催され、生産者や民間企業などの約50人が参加しました。生産者が自己紹介をした後、テーマ別に「生産性向上・生産技術」「流通・販路」「農業関連ビジネスの創出」「地域活性化・担い手確保」のルームに分かれ、メンバーの顔合わせ・意見交換が行われました。参加メンバーは今後のミーティングだけでなく、Facebookでもグループでつながり、意見交換を進めていきます。ここから始まるイノベーションにご期待ください。

■生産性向上・生産技術

「小規模経営に適したスマート農業技術の構築」をテーマとするこのグループでは、農家の課題を共有する中で規格外野菜の活用が一つのトピックになりました。参加者の出荷形態によって対応は異なり、市場出荷が中心の場合は規格外品を減らすような栽培に取り組み、飲食店などへの直配を行うところでは規格品とのセット販売を。個人への直売ではお得な規格外品も一定の割合で求められるといいます。企業側からは他県での規格外品販売の事例が共有されました。また、主テーマのスマート農業については、ドローンを導入した効率アップや水管理などの遠隔操作で異常気象にも対応できればという声も。初回ということもあり、スマート農業に関する話題以外にも多様な参加者との何気ない雑談も行われました。

■流通・販路

「農産品の新しい流通システムの構築」や「マーケティング・プロモーション」などをテーマとするこのグループには、京野菜の生産者、金融、物流などの多業種のメンバーが参加。生産者から寄せられた「金時人参の販路拡大」に関する課題に対して多くの意見が出されました。京野菜の需要は、飲食店を中心とした小口・多頻度。共同配送の仕組みとして上賀茂の賀茂茄子部会で以前から行っている移動販売の取組が紹介されました。また、万願寺唐辛子の生産者からは安定供給のためには部会のレベルアップの重要性も話題に。その他、倉庫技術の活用、公共交通手段の貨客混載、企業の福利厚生サービスを活用した野菜のサンプリングなどの意見交換が行われました。

■農業関連ビジネスの創出

「農業外収入の獲得，6次化，地産地消など，消費拡大に向けた新たな取組」がテーマのこのグループでは，事前アンケートから課題を抽出。直売所だけでは売り切ることができないが，少量多品目の販路拡大に手が回らないという課題に，家族経営では生産で手一杯という声やネット販売での送料の割高感を懸念する意見も。初回ということで，産地の特殊性をどう謳うべきかというプロモーションの話やイチゴ狩り・ヒマワリ畑といった既に行っている取組を地域活性につなげたいという意見も。更にはオンラインファーマーズマーケットに関する構想などに話が及ぶなど，多角的な意見が交わされました。

■地域活性化・担い手確保

「地域活性化と担い手確保」というテーマを議論するグループでは，今回は主に農家や農産品をどのようにしてブランディングするのかについて意見が交わされました。辛味大根を守り続ける生産者からは薬味以外での活用法がないという話や小規模経営を成り立たせるために箱売りできる出荷先を探したいという課題が上がり，参加者からはアグリツーリズムや農泊を活用する意見が出されました。「農家が行っていることに新たに意味づけを加えることで，SDGsの取り組みができる」と，クラウドファンディングによる里山の景観保護（地域の特産品を返礼に）や地域資源循環を事業化するビジネスに取り組む生産者も参加するなど，多様な参加者による意見交換が行われました。